

I 実践

1 研究主題

「一人一人が人権尊重の自覚をもち、認め合い、助け合う子どもの育成」

主題設定の理由

本校の教育目標は、「確かな学力をもち、たくましく生き抜く創造性豊かな実践人を育成する。」であり、目指す児童像は、「よく考え進んで学ぶ子」「明るく思いやりのある子」「心身ともにたくましい子」である。これらを受け、本校の人権教育の目標を「好ましい人間関係をつくり、誰に対してもわけへだてしない子どもの育成」「自分から進んで学習し、物事についての正しい見方・考え方を身につけた子どもの育成」「集団活動を通して、お互いに認め合い、助け合う子どもの育成」としている。近年、本校の児童は、比較的落ち着いた学校生活を送ることができており、「会瀬あいうえお」という会瀬小学校のきまりをもとに遵守していこうとする姿が多く見られるようになってきている。さらに、少しずつ友だちとの関わり方や自分で解決しようとする気持ちや態度を育てていくことができるよう人権感覚を涵養、しお互いを大切にするこのできる児童の育成を目指し、本主題を設定した。

研究内容

- ア 人権を尊重する人間関係づくり
- イ 人権を尊重する学習活動の推進
- ウ 人権を尊重する環境づくり



2 実践内容

人権を尊重する人間関係づくり

ア 縦割り班活動による異学年交流

各クラスを12班に分けて縦割り班を作り、年間計画のもと、ほぼ毎月1回異学年集団で遊び、交流を図っている。決められた活動場所でみんなが楽しく遊べるように、真剣に話し合いを行っている。さらにこの交流によって、休み時間には、学年を超えた児童が入り交じって遊ぶ姿がみられるようになってきている。また、今年度は、新たな取り組みとして「縦割り班対抗P P A P集会」を行った。縦割り班の児童が目標に向かって1つになる姿は、授業では見られない光景であった。下級生を思いやる場面、上級生の姿を見習った言動、他の班を応援したり、失敗した友達を励ましたりする様子など、優しさと楽しさををたくさん味わうことができた。

イ 高学年による「スマイルプロジェクト」

6年生が最高学年として、「明るく、楽しく、きれいな学校にしたい。みんながスマイルになる学校にしたい。」という思いから活動2年目となる。昨年4、5年生であった児童は、「今年は・・・」という意気込みを見せながらスタートした。

組織は、「あいさつ運動」「清掃」「なかよし」の3つの実行委員を柱に活動している。失敗を繰り返しながら、活動を継続してきた。中でも交流給食は、6年生が下級生のクラスに入り、6年生と楽しく食事することができた。楽しい会話が生まれ、食事を残す児童も少なくなり、みんなが元気・感謝・スマイルいっぱいの会瀬小学校に近づけたようである。

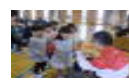
(2) 人権を尊重する学習活動の推進

ア パラリンピアンとのふれあい集会

2020年東京オリンピックが開催されることで、オリンピック、パラリンピックについて学習する機会を与えられた。

講師として、ロンドンパラリンピックウィルチェアラグビー（車いすラグビー）出場リオパラリンピックアシスタントコーチの三阪 洋行氏を招いて行われた。

各学年、学級では、事前に道徳や学級指導でパラリンピックについて学習して参加した。ふれあい集会では、パラリンピックについて話を聞いたり、競技のデモンストレーションを見たりすることを通して、スポーツの楽しさや素晴らしさを味わうことができた。また、夢に向かって努力する選手の話聞くことで夢をもつ素晴らしさや諦めないで続けることの大切さを身近に感じとることができた。傾きながら聞き入っている児童の姿はとても印象的であった。パラリンピックが目指す人権についても考えるよい機会であった。



(3) 人権が尊重される環境づくり

ア ハートいっぱいけやきの木

「ハートいっぱいけやきの木」と各学級に「ハートいっぱい学級の木」を作り、さまざまな授業や学級の問題や行事などを通して、児童が感じ取った気持ちをミニメッセージとして書き掲示していった。その際、担任からも温かいコメントをもらい、けやきの木がどんどんハートいっぱいになっていった。秋には、校長先生から「4つの秋を元気に味わい、充実した秋にしていきましょう。」と掲示物を使ったお話しがあった。児童は、大きな掲示物を見ながらそれぞれの思いで、元気に実りの多い秋を実感・体感することができた。

イ 「人権メッセージ」の取り組み

「自分の良いところ発見や友達のよいところ発見」を通して自他共に肯定感を高めるために、取り組んだ。気付かない自分の良さを友達から教えられうれしかったことや友達のよいところを考えて伝えられたことは、喜びや自信につながった。

3 成果

- (1) 学校生活全体を通して、これまでの取り組みの継続や「会瀬あいうえお」を意識した落ち着いた生活が送れる環境は、元気で明るいおおせっ子を育てていると感じた。
- (2) 教育活動全体を通して、自分以外の人も認め、尊重する態度が養われてきている。

II 今後の課題

教職員の人権意識の向上は不可欠であるので、校内研修などをさらに充実させ、さまざまな取り組みを意識しながら継続していきたい。その中で、人権感覚の涵養を図っていきたい。

